

一般社団法人日本解剖学会 2018年(平成30年)度第4回常務理事会議事録

日時：2018年9月1日(土)10:00～13:15

場所：東京医科歯科大学MDタワー18階 小会議室

出席者：岡部繁男(理事長)、木山博資、寺田純雄、仲嶋一範、八木沼洋行(以上常務理事)

松崎利行(常任幹事)、片桐 淳、中村 聡 (以上、口腔保健協会)

欠席者：阪上洋行(常任幹事)

I. 会議記録の確認

- (1) 2018年(平成30年)度第4回常務理事会(平成30年6月10日開催)議事録(案)
2018年(平成30年)度第4回常務理事会(平成30年6月10日開催)議事録(案)が確認された。

II. 報告事項

1. 庶務報告

(1) 会員異動報告

資料に基づき、以下の通り報告があった。

平成30年6月分

入会者 正会員 3名、学生 1名

退会者 正会員 5名、学生 1名、名誉会員 1名

平成30年7月分

入会者 正会員 4名、学生 2名

退会者 正会員 3名

逝去会員 2名

渡 仲三 氏(名古屋市立大学・名誉教授/名誉会員)平成30年2月15日逝去(満91歳)

橋本一成 氏(大阪大学・名誉教授/永年会員)平成30年6月8日逝去(満88歳)

尾崎 公 氏(日本大学・名誉教授/名誉会員)平成30年8月30日逝去(満93歳)

新規就任教授

池上浩司 先生(広島大・医・解剖学及び発生生物学・教授 平成30年4月1日就任)

藤谷昌司 先生(島根大・医・解剖学(神経科学)・教授 平成30年4月1日就任)

(2) 学会宛文書について

資料に基づき、以下の通り報告があった。

①通知・依頼：北海道大学より「北海道大学大学院医学院入学説明会のご案内」他56件

②書籍・定期通信 他：(独)日本学術会議より「学術の動向 2018.6」他13件

(3) 男女共同参画学協会連絡委員会報告

資料に基づき、8月24日(金)に開催された男女共同参画学協会連絡会第16期第3回運営委員会(徳田信子先生：男女共同参画推進委員会委員長 出席)の報告があった。次年度より分担金が10,000円から15,000円となるが、大規模アンケート実施のための予算面などについて実情を確認することとした。

(4) 平成30年度推薦による代議員申請状況について

資料に基づき、平成30年度推薦による代議員申請(10月31日締切)の申請状況について説明があった。現時点で2名の申請があるが、今年度10名ほどの申請が無いと代議員数が300を下回る可能性がある。代議員選出規程では300名以上500名以内の代議員を置くこととなっているので、対応を考える必要がある。今後5年間ほどの代議員数の推移を予測してみ、対応を検討することとした。

(5) その他

特になし。

2. 編集報告

(1) 解剖学雑誌及びASI刊行報告

資料に基づき、解剖学雑誌93巻とASI Vol 93 No 4の発送(9月20日予定)について報告があった。常務理事からは解剖学雑誌の追悼文が長いのではないかとの意見があり、今後は可能な限り1ページ以内にしてもらうこととした。また掲載順序について、現在各巻の冒頭が追悼文となっているが、最後に掲載することとした。

(2) その他

特になし。

3. 企画・渉外報告

(1) 認定一級技術者資格試験について

資料に基づき、平成30年度認定一級技術者資格試験（9月29日に実施予定）に1名の応募があったことが報告された。

(2) 認定二級技術者審査結果について

資料に基づき、平成30年度認定二級技術者審査の結果、4名の合格者が報告された。

(3) 2019(平成31)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、2019(平成31)年度総会・全国学術集会の準備状況について、順調に進んでいるとの報告があった。プログラム編成に関しては、公募シンポジウムの採択状況について説明があった。常務理事からは、学生セッションが同時時間帯に複数会場に分かれて予定されている点について、聴衆が分散してしまう可能性が高く、前回のアンケート結果などを参考にして再度検討したほうがよいとの意見が出た。また、CSTなどの外科手術手技に関する政府の対応について、情報共有を図るための場を学会に設ける可能性についても意見が出された。

(4) 2022(平成34)年度総会・全国学術集会担当校について

資料に基づき、2022(平成34)年度総会・全国学術集会担当校について、現在募集中であることが報告された。

(5) 日本医学会・日本医学会連合報告

資料に基づき、日本医学会・日本医学会連合の報告があった。6月19日に開催された日本医学会連合基礎医学連絡会議では、加盟学会共通の課題である若手の育成に関する対応策について議論され、基礎系で相互に関連する3学会程度が連携して、1泊2日で若手のワークショップを開催する方向であるとの説明があった。また、日本医学会総会奨励賞の解剖学会からの候補者2名について説明があった。

(6) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、生物科学学会連合の報告があった。次期代表候補者の推薦依頼があったことが報告された。また、10月1日に開催される公開シンポジウム「持続可能な社会を目指して生物科学は何ができるのか」～生物科学系学会のあり方を考える～において、加盟学会によるスピーチが予定されているが、理事長が対応することとした。

(7) 平成30年度奨励賞・認定解剖組織技術者功労賞申請状況について

資料に基づき、平成30年度奨励賞・認定解剖組織技術者功労賞申請状況について報告があった。

(8) その他

特になし。

4. 会計報告

(1) 平成30年度中間決算書について

資料に基づき、平成30年度中間決算書（平成30年1月1日～7月31日）について説明があった。事業収入では、会誌等頒布収入がASIの契約更新の結果、前年度に比べて増している。管理費支出では、今年度は役員交代年度ではないため、会議費、旅費・交通費が前年度に比べて抑えられている。

(2) 第123回総会・全国学術集会収支報告

資料に基づき、第123回総会・全国学術集会収支決算書と報告書の説明があった。1,470,066円が特別事業積立金へ繰入された。全国学術集会参加者（市民公開講座参加者を含む）は1,325名で、例年より多かった。

(3) 日本外科学会CST推進委員会報告

一部資料に基づき、8月31日開催のCST推進委員会についての報告があった。厚労省に加えて文科省もCSTに関連して新規の概算要求を行っていることが報告された。この件の会員への周知については、文科省に確認の上時期をみて行うこととされた。また、遺体を用いて器機の開発などを行う場合の企業の関わり方や知的財産権の取扱いなどについてCST推進委員会内にアドホック委員会を設けて検討していくことが報告された。

(4) その他

理学療法士学会からの依頼について、解剖学会からの回答案について理学療法士学会側に打診中であることが報告された。

Ⅲ. 審議事項

1. 新入会員の承認について
資料に基づき、2018年6月1日から7月31日に入会申請のあった一般会員7名、学生会員3名について審議され、全員の新規入会が承認された。
2. 教授就任による代議員審査について
資料に基づき、教授就任に伴う以下の2名の代議員申請者について審議し、承認された。
池上浩司 先生（広島大学・解剖学及び発生生物学（旧解剖学第一）・教授、2018年4月1日就任）
藤谷昌司 先生（島根大学医学部・解剖学（神経科学）・教授、2018年4月1日就任）
3. 次期代議員・役員選出選挙について
資料に基づき、次期代議員・役員選出選挙について審議し、承認された。今回からオンライン投票で実施する。
4. 解剖学雑誌電子化について
資料に基づき、解剖学雑誌電子化について審議し、①PDF化については、まずはクオリティーを確認するための参考資料として1万円分を試行する、②国立国会図書館に在庫がない12-14巻、27巻2号については解剖学会に重複があるので寄贈する、③岩手医大からの寄贈分のうち、岩手医大に在庫がない分はPDF化完了後に返却することとした。
5. 技術職員に関するアンケート（全国展開版）について
資料に基づき、技術職員に関するアンケート（全国展開版）について審議し、アンケートをオンラインで10月頃開始し、1か月半程度の期間を設けて各大学で集約して回答してもらうこととした。
6. 第124回総会・全国学術集会における委員会企画への助成審査について
資料に基づき、学術委員会より申請のあった、第124回総会・全国学術集会における日本顕微鏡学会との連携シンポジウム企画「クライオ電子顕微鏡による新時代の解剖学」への助成について審議し、10万円の助成が承認された。
7. 8thAPICAについて
資料に基づき、8th APICA（2018年10月28～31日予定で韓国・釜山で開催）への若手研究者の派遣に関して審議し、旅費を7.5万円×4名支給することが承認された。応募資格は2018年4月1日時点で39歳未満の会員とし、募集を開始することとした。また、韓国との協定のなかで、2019年の第124回全国学術集会では、韓国の解剖学会の若手研究者との交流セッションを設けることとなっているので、全国学術集会3日目の午後に、発表の場と交流会を設けることを第124回全国学術集會会頭へ依頼することとした。
8. イメージングプラットフォーム形成について
資料に基づき、日本の生命科学・医学の将来を考える会（発起人：岡部繁男先生、藤本豊士先生、松田道行先生、米田悦啓先生）から「若手育成・研究者ネットワーク形成を目指したイメージングプラットフォーム」の形成について各種学術団体へ提案し、既に複数の学会から承認されたことが報告された。今後もこの活動を継続することについて承認された。
9. 日本解剖学会若手の会（仮称）立ち上げについて
資料に基づき、日本解剖学会若手の会（仮称）立ち上げについて審議し、第124回全国学術集会の初日と2日目のシンポジウムの会場でスライドによるアナウンスをおこなったうえで、3日目にランチョンセミナーをおこない、若手の会の立ち上げる案につき、大会担当校に諮ることとした。また、常務理事からは、各種委員会のうち可能な委員会については若手を委員とすることも、学会への参画を促す上で重要ではないかとの意見が出された。
10. 入会手続のオンライン化について
資料に基づき、入会手続のオンライン化について、学会事務局より提案があった。審議した結果、特に問題はないので、理事会で審議することとした。また、入会時には代議員からの推薦が必要であるが、その是非について意見が出され、合わせて理事会で審議することとした。
11. 常務理事会・理事会日程の確認
2018年12月16日（日）A P 東京八重洲通りを予定
常務理事会 10:30-13:00（部屋は13:30まで使用可）、理事会 13:30-17:00（開場13:00）
12. その他
特になし。